

令和3年度 津田中学校 学校評価

	自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
	重点目標	活動計画	評価指標	評価		学校関係者の意見
学習指導	<p>1. 生徒の基礎的な知識・技能の定着と、学ぶ意欲の向上を図るため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を実践する。</p> <p>2. 生徒の学習習慣の確立と学習方法の習得を図り、主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p>	<p>1. 学びへの興味・関心を持たせるためGIGAスクール事業のタブレットなどのICT活用に積極的に取り組む。また生徒同士の協働の場面をつくるなどアクティブラーニングの手法を取り入れる。</p> <p>2. 自主学習ノートの使い方の指導を行い、学習方法を身につけさせる。またテスト期間や長期休業中に学習記録をつけさせることで、家庭学習習慣の定着を図る。</p>	<p>1-①. 「ICTを利用した授業が行われている。」と答える生徒が80%以上となる。</p> <p>1-②. 「授業の中で疑問や意見を率直に出せる場が設定されている。」と答える生徒が80%以上となる。</p> <p>2-①. 「家庭学習が習慣化している」と答える生徒・保護者が85%以上となる。</p> <p>2-②. 「家庭学習の方法を身につけている」と答える生徒が80%以上となる。</p>			
生徒指導	<p>1. 自ら進んでする自発的なあいさつの定着を図る。</p> <p>2. いじめの予防・早期発見・生徒理解を深め、相談体制を確立する。</p>	<p>1. 教職員や生徒会役員によるあいさつ運動を実践する。</p> <p>2. 学校生活アンケートやチェックシートの活用、スクールカウンセラーとの連携により生徒理解を深め、相談しやすい組織・環境の整備に努める。</p>	<p>1. 「自ら進んで、あいさつがきちんとできている」と答える生徒・保護者・教員が80%以上となる。</p> <p>2. いじめ予防の啓発と相談しやすい体制・組織が確立できる。スクールカウンセラーとの連携を密にし、情報を共有し、事前予防ができる。</p>			
道徳・人権教育	<p>1. 校訓の精神を基盤として、自他の生命を尊重し、感謝や思いやりのある豊かな心を持った生徒を育成する。</p> <p>2. 自他の人権を尊重し、民主的な社会を築く実践力を身につけた生徒を育てる。</p>	<p>1. 道徳性や道徳の実践力を育むため、22項目の内容を計画的に配置する。また、生徒が意欲的に活動できるような授業形態や補助教員の工夫・改善を図る。</p> <p>2. 「津田中生みんなが幸せになる」ために自他を尊重しようとする態度を育成する人権学習を進める。</p>	<p>1-①. 生活アンケートのあいさつ・感謝の言葉を伝える項目が90%以上となる。</p> <p>1-②. 清掃や交通マナーなど集団や社会の一員としての内容が85%以上となる。</p> <p>2. 自他の人権を尊重しようとする意欲をもち「実践できた」と答える生徒が90%以上となる。</p>			
特別支援教育	<p>1. 通常学級に在籍する配慮を要する生徒への理解を深め、支援を実施し改善を図る。</p> <p>2. 支援学級在籍の生徒に対して、指導計画等を作成して計画的な指導を行う。</p> <p>3. 全教職員の特別支援教育に関する理解を深める。</p>	<p>1. 生徒への支援と、保護者や他機関と連携方法を工夫する。</p> <p>2. 担当教員間で情報を共有し、学期ごとに評価をして改善を図る。</p> <p>3. 校内支援委員会等を活用して支援体制を充実させ、教員の理解を深める。</p>	<p>1. 具体的支援目標を立てて実行する。「ユニバーサルデザインを心がけている」と答える教員が75%以上となる。</p> <p>2. 指導項目の5割はAの評価ができるようにする。</p> <p>3. 校内支援委員会を年間3回以上開催し、校内支援の体制を整える。</p>			
健康・安全指導	<p>1. 自分の心身の発達に関心を持ち、健康の保持増進に努める。</p> <p>2. 学校防災管理マニュアルを踏まえての危機管理に努め、安全な教育環境を保持する。</p>	<p>1. 健康力アップ作戦を基に、生徒自らが健康・生活習慣改善のための課題を考え目標を定めて取り組む。</p> <p>2. 総合学習・生徒会活動等の機会を生かしながら、防災教育の連携を図る。</p>	<p>1. 「心身の健康に気がつけた生活が送れている」と答える生徒が80%以上となる。</p> <p>2. 避難訓練後のアンケートにおいて、「避難について理解できた」と答える生徒・教員が85%以上となる。</p>			
開かれた学校づくり	<p>1. 学校経営の方針や教育活動の状況について、保護者や地域の方々に説明し、理解と協力を得る。</p> <p>2. 新型コロナウイルス感染症対策をとりながら、学校・家庭・地域が連携できるよう工夫する。</p>	<p>1. 積極的に学校開放を行い、教育活動の様子を見てもらったり、学校ホームページや学校・学年だよりによる情報発信を積極的に行ったりする。</p> <p>2. 新型コロナウイルス感染症対策をとりながら地域の人材を活用し、PTAや関係機関と連携・協力を図り、地域とともにある学校づくりに努める。</p>	<p>1. 週1回以上ホームページを更新するなどして、「学校の様子がわかる」と答える保護者が85%以上となる。</p> <p>2. 「コロナ禍において学校・家庭・地域が連携できるよう工夫している」と答える保護者・教員が70%以上となる。</p>			